

運営に関する計画

令和6年度

大阪市立清水丘小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校児童には、「おはようございます」「さようなら」の元気なあいさつ、「失礼します。○年○組の◇◇です。△△をしに来ました。」という職員室入室時の礼儀正しいあいさつ、各委員会からの聞き取りやすいお知らせの放送や集会での報告など、自分の言葉でしっかりと伝えよう、表現しようとする姿がいろいろな場面で見られる。フレンド集会や児童会で計画する「なかよし集会」「清水丘フェスティバル」などで高学年が低学年に見せるさりげない優しさ、委員会やクラブ、地区別子ども会など、様々な場面で高学年として責任をもって活動している姿など、子どもたちの一所懸命活動している姿にその着実な成長が感じられる。

これまで、表現力の育成を目標に、様々な面からの表現活動、とりわけ、話し合い活動の充実や工夫などを中心に取り組んできた成果である。授業の中で積極的に発表しようとする子や友だちの意見をしっかり聞いている子、正しい話型が身についていて積極的に話し合い活動を進めていこうとする力が着実に身についていている。

しかし、長く続いた感染症禍の影響や近年の社会の風潮などにより、物理的にも心情的にも人と距離をとる傾向がみられ、話し合い活動を含めた表現する場面、コミュニケーションを取り合う場面を十分にもてなくなってきた。子どもたちを見ていても、積極的に発表しようしたり意欲的に様々な活動に関わっていったりする姿が減ってきてているように感じられる。相手のことまでよく見て、よく考えて関わろうとする気持ちの余裕もなくなってきたようにも思われる。十分な成就感や達成感を得られる機会が減り、目に見えないストレスやあきらめ、不安が募っているようにも思われる。その中でも、子どもたちは可能な範囲でできる最大限の活動に一所懸命に取り組んできた。厳しい状況が続く中でも、しっかりと前を向いて頑張っていこうとする子どもたちが多く、これまで取り組みが引き継がれ、子どもたちの力として確実に育ってきている成果でもある。

子どもたちが安心して、期待と意欲をもって取り組んでいけるような活動を工夫したり新たに構築していったりする必要がある。加えて、やればできるという自信や達成感を深め、自分も相手も大切にしながら共に高めあっていけるような取り組みにいかなければならない。学習面での結果として成果が表れるようにしていくことも必要である。新たに目標設定をするにあたり、改めて学習面はもちろん、生活規律やコミュニケーション力・表現力等における土台・基盤をより強固にしていくよう、教職員一丸となり、地域や保護者とも連携を図りながらその目標に向けて教育活動を推進していくこととする。

校訓 『強く 正しく 美しく』

令和5年度 学校教育目標
「自ら学ぶ態度と心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ教育を推進す
る」

全員が わかる できる 算数科の授業づくり
～授業のユニバーサルデザイン化を目指して～

思考力
・判断力
・表現力
・読解力
・基礎基本の定着

【知】

- ・基礎基本の学力の向上
- ・授業改善
- ・読書活動の充実

【徳】

- ・学習規律の維持
- ・互いに理解し支えあう
- ・集団の育成
- ・生活指導の組織的推進

【体】

- ・体力の向上
- ・健康の保持増進
- ・食育の推進

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。
- 令和7年度の保護者アンケートにおいて、「学校は、命の大切さや人の心を大切にすることに取り組んでいる」の項目について、肯定的回答率を95%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「学校では自分からすすんでいきたい」との項目について、肯定的回答率を90%以上にする。

【未来を切り拓くため学力・体力の向上】

- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「授業で自分の考えを発表することがある」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「休み時間に友だちと一緒によく外に出て遊んでいる」の項目について、肯定的回答率を80%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「運動やスポーツをすることが好き」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「授業は興味をもって活動できる」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。
- 令和7年度の保護者アンケートにおいて、「学校の様子は参観や懇談、学校・学年通信などで伝えられている」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を67%以上にする。
- 小学校学力経年調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を73%以上にする。
- 小学校学力経年調査において「自分にはいいところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和6年度2回目児童アンケートにおいて「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度に比べて1ポイント以上上げる。
- 令和6年度2回目児童アンケートにおいて「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目について肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。
- 令和6年度2回目児童アンケートにおいて、「自分にはいいところがある」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度に比べて1ポイント以上上げる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和6年度2回目の児童アンケートにおいて、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。
- 令和6年度2回目の児童アンケートにおいて「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 授業において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く）。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和6年度2回目の児童アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合を80%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は「自ら学ぶ態度と心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ教育を推進する」という教育目標のもと、「全員がわかるできる算数科の授業づくり～授業のユニバーサルデザイン化を目指して～」を研究主題とし、①全員がわかるできる授業づくり②基礎基本の定着③効果的なICTの活用の3本柱を立てて研究を進めてきた。算数科の研究も3年目になり、今年度は特にICTの効果的な活用を通して、いかに子どもたちが「基礎・基本」を定着できるかを重点に置き、取り組んだ。

「安心・安全な教育の推進」の項目においては、①学校の決まりを守り、みんなが安心安全に学校生活を送れるようにすること②計画的かつ系統的に人権教育や道徳教育に取り組み、「いじめはどんなことがあっても許されないと実感し、いじめを絶対に許さない児童を育てる」との2点を目標を掲げ、その推進に努めてきた。学校のきまりや生活目標について、毎週の児童朝会で振り返りや目標の確認を行うことで、学校のきまりを守ろうとする児童の意識は高まってきている。しかし、忘れ物や遅刻、帽子や名札忘れなどまだまだ不十分なところもあるので、継続して指導していく必要がある。また、月一回必ず「いじめアンケート」を実施し、いじめについて早期発見に努め、人権教育や道徳教育において強化週間を設定する等の取り組みで、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という認識が高まってきているように感じる。その反面、まだまだトラブルも多く起こっているので、相手の立場に立つことの大切さや、自分の考え方や思いの伝え方について、指導を継続していく必要がある。また、専門機関との連携を図りながら、子どもの居場所づくりに取り組んできたので、今後もそれを継続していく。

「未来を切り開く学力・体力の向上」の項目では、基礎・基本の定着に努めてきた。学習の中にペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりできるような授業展開を行い、学力保障を図ってきた。しかし、なかなか結果に結びつけることができなかつた。学力経年調査においても、大阪市平均を超えることができなかつた。これからも教科の学習を通して集中して課題に取り組み、話を聞くことの大切さについて指導をし、学力向上に努めていく。体力向上の面では、みんな遊びを充実させたり、体育科の指導に工夫を凝らしたりしたこと、元気に外で遊ぶ児童が増えてきた。今後ますます児童が体を動かすことの楽しさを実感できるよう、参加しやすい活動を取り入れたり、放送等で外遊びを呼び掛けたりしていく必要がある。

「学びを支える教育環境の充実」では、ICTの整備を進め、ICTの活用率も随分上がってきている。ICTをつかった授業は面白いと多くの児童が感じており、成果を感じることができる。「こころの天気」「相談機能」などの利用を通して、子どもたちの心の健康状態も把握できている。家庭や地域との連携においては、積極的に連携をとることができた。今後も学校だよりの発行やPTA実行委員会、地域の行事などを通して保護者や地域に本校の取り組みを周知し、理解と協力が得られるよう、さらに取組を進めていく。

(様式 2)

大阪市立清水丘小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 67 %以上にする。 ○ 小学校学力経年調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 73 %以上にする。 ○ 小学校学力経年調査において「自分にはいいところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 83 %以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 6 年度 2 回目児童アンケートにおいて「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度に比べて 1 ポイント以上上げる。 ○ 令和 6 年度 2 回目児童アンケートにおいて「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目について肯定的回答をする児童の割合を前年度より 1 ポイント以上上げる。 ○ 令和 6 年度 2 回目児童アンケートにおいて、「自分にはいいところがある」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を 83 %以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりを守り、安全に正しく学校生活を送れるように、児童の実態を的確に把握し、全教職員が日常的・組織的に指導する。 ・保護者・地域・関係諸機関等と連携をとりながら、児童虐待への対応や防災・減災、交通安全、防犯等の安全を守るために活動を計画的に推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりや生活目標について、毎週の児童朝会で前週の反省をし、今週の目標を伝える。さらに教室に月目標を掲示し、学級指導を行い、定着を図る。 ・スクールサポーターやスクールカウンセラー、主任児童委員との打ち合わせやこどもサポートネットとのスクリーニング会議、はぐくみネットコーディネーター会議等を隨時行い、情報共有しながら適切に対応できるようとする。 <p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめについて考える日」をはじめ学校教育活動のあらゆる機会をとらえ互いに理解し認め合うこと、いじめはどんなことがあっても許されないと実感し、いじめを絶対に許さない児童を育てる。 	B

指標

- ・人権教育指導計画や道徳教育全体計画に即して、計画的、系統的な人権教育、道徳教育を推進する。
- ・いじめの早期発見および迅速に対応できるようにするために、毎月および学期に1回、いじめに関するアンケートを行う。また、アンケート結果を共有し全教職員で取り組む。

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・互いに理解し、支え合いながら問題を解決していく力を育てる。
- ・日々の学習活動等で課題を達成する成就感をもたせ、自己肯定感を育成する。
- ・相手を思いやったり善悪の正しい判断をしたりできる道徳性を養う。

指標

- ・日々の学習活動に加えて、児童会行事やフレンド集会、委員会発表、クラブ発表、学年発表等、様々な発表・表現の機会、成就感をもたせる機会を工夫する。
- ・人権教育指導計画や道徳教育全体計画に即して、計画的、系統的な人権教育、道徳教育を推進する。
- ・令和6年度2回目の児童アンケートにおいて、「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・令和6年度2回目児童アンケート「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、86.8%と目標を達成している。
- ・年間を通して生活指導部会や職員朝会、職員会議等で職員間の共通理解を図ってきた。また、児童に対して学校のきまりや生活目標について児童朝会で知らせ、全体指導、学級指導を行ってきたため、きまりを守ろうとする児童の意識は育ってきた。(児童アンケートの「学校のきまりや約束を守っている。」の項目において肯定的回答率は92.9%と比較的高い。)
- ・意識は高まってきた一方で、忘れ物や登校時刻、帽子や名札の着用などまだ不十分だと感じる部分もある。
 - ・スクールサポーターやスクールカウンセラー、主任児童委員との打ち合わせやこどもサポートネットとのスクリーニング会議、はぐくみネットコーディネーター会議等を随時行い、情報共有しながら適切に対応できるようにしてきた。

取組内容②

- ・令和6年度2回目児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目について、94.7%と目標を達成している。一方で、いじめにつながるようなトラブルも多く子ども達のいじめの定義がずれているように感じる部分もある。
- ・人権教育や道徳教育について年間計画をもとに取り組むとともに、強化週間を設定するなど、計画的に進めてきた。
- ・毎月のいじめアンケートは、意識を高める上で効果があった。毎月実施すること

で、例年よりも高い頻度で子どもから大人に対して問題を伝えることができ、早く把握することができた。一方で、結果の共有について、中には担任で止まってしまっていた事案もあり、教職員間の情報共有に課題が残った。

取組内容③

- ・令和6年度2回目児童アンケート「自分にはいいところがある」の項目について、84.5%と目標を達成している。
- ・令和6年度2回目児童アンケート「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている。」の項目について、95.4%と目標を達成している。
- ・様々な発表の場や表現の機会を工夫してきたことで達成感を感じることができた。また、フレンド集会や児童会行事を通じて、他学年と交流する機会をもつことができ、お互いを思いやる心を育てることができた。

改善点

取組内容①

- ・引き続き、職員会議等の全員がいる場で教職員間の共通理解しながら、全校をあげて共通して指導を進めていく。

取組内容②

- ・計画の見直し・改善を図りながら、継続して人権教育、道徳教育に取り組む。
- ・引き続き、毎月のいじめアンケートを実施していくとともに、アンケート結果を共有し全教職員で取り組む体制を整える。

取組内容③

- ・効果のあった取り組みについては、引継ぎを確実に行いながら、次年度も継続して取り組んでいく。

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年度2回目の児童アンケートにおいて、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。 ○ 令和6年度2回目の児童アンケートにおいて「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の授業研究は「全員がわかるできる算数科の授業づくり」をテーマにし、副題として「授業のユニバーサルデザイン化を目指して」を設定した。これまでの研究で培ってきた「学んだことを表現する力」を活かし、一人一人の考えを共有しあいながら算数の基本を確実に定着させていくための効果的な指導の研究を進め、共有化を図り、結果を分析する。 ・日々の学習活動の中に話し合い活動を積極的に取り入れ自己表現の機会をつくる。 ・児童会行事やフレンド集会、委員会発表、クラブ発表、学年発表等、様々な発表・表現の機会を工夫し、多様な方法で意欲的に表現活動に取り組ませる。お互いが相手のことを尊重し合いながら話し合いを深め、主体的に取り組ませる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での話し合い活動(ペア・グループ・全体)の場を設定することで、自分の考えを深めたり広めたりすることができる力を養う。 ・様々な表現活動を積極的に行い、次の表現活動への意欲づけや改善につながるようにお互いを認め合う相互鑑賞・感想の発表・感想文の交流等の機会を設ける 	C
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上にかかる体育的行事を年間2回以上実施し、児童の健康や体力の保持増進に対する興味関心を高める。 ・児童が休み時間に進んで外遊びができるように声かけをしたり、みんな遊び等を計画したりする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回以上、休み時間に学級全員で外遊びの時間を設ける。 ・なわとび週間や耐寒かけ足週間を各1週間以上実施する。なわとびカードやかけ足カードを使用することで、児童の意欲を高める。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取り組み内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度も算数科の研究を進めてきた。全学年の研究授業を終え、講師先生の意見もいただきながら「全員がわかるできる算数科の授業づくり」の研鑽が深められた。次年度、研究教科は変わるが、児童の実態を踏まえながら研究テーマを設定し、授業力の向上に取り組んでいきたい。 ・各学年で授業の中にペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れてきた。児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は48%で肯定的な児童を対象にすると84%だった。1回目のアンケートでは最も肯定的な児童の割合は45%で、肯定的な児童を対象にすると77%で改善はしたもののが目標を達成できなかった。経年調査の結果でも最も肯定的な児童の割合は45%で目標を達成できなかった。 ・フレンド集会は1組、2組、3組に分かれて行うことで、活動の幅が広がりグループで話し合いながら答えを導いたり、体を動かしたり、相手を尊重しながら 	

様々な活動ができた。

取り組み内容②

- ・今年度もかけ足週間となわとび週間ともに行うことができた。児童アンケート「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は64%で、肯定的な児童を対象にすると85%だった。1回目の児童アンケートでは最も肯定的な割合は62%で、肯定的な児童を対象にすると81%で改善はしたものの目標を達成できなかった。経年調査の結果でも最も肯定的な児童の割合は69%で目標を達成できなかった。
- ・暑さが厳しいときは、学級での外遊びが難しく外に遊びに行く児童も減っていたが、気温が下がってくると外遊びをする児童は増えた。また冬には、休み時間にトラックを走ったり、なわとび（おおなわ含む）を行ったりする児童が増えたことも数値が改善した要因と考える。

改善点

取り組み内容①

- ・次年度、研究教科を変える予定でいるが、児童の実態を踏まえながら研究テーマを設定し、授業力の向上に取り組んでいきたい
- ・高学年になるにつれ学習が難しくなってくるため、話し合いの焦点化、話し合いをしやすい環境の構築（話型やタブレット、ICTの活用）について次年度も考えていく必要がある。最も効果的な割合を上げるために、話し合いの頻度、質の向上を目指し、教材研究を行っていく。
- ・フレンド班の活動は後期から1・2・3組に分かれて実施した結果、活動量が増え、表現の場も増えたので次年度も同じように取り組んでいきたい。

取り組み内容②

- ・なわとびカードやかけあしカードのような児童の頑張りを促すような取り組みを次年度も行っていく。
- ・次年度も引き続き、児童が休み時間に進んで外遊びができるように啓発を行っていく必要がある。楽しめる外遊びなどを提案し、放送等で呼びかけを行っていく等、運動への興味関心を引き出したい。

目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none">○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く）。○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。	B
<p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">○ 令和6年度2回目の児童アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合を80%以上にする。○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ICTに関わる研修会を年間1回以上実施し、教職員の指導力の向上を図るとともに、学習者用端末を活用した授業の工夫を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校で週3回以上は学習者用端末を活用した学習活動ができるようになる。 	B
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 <ul style="list-style-type: none"> ノー残業デーを活用し、効率よく業務を遂行する意識を高める。また、学校閉校日を年間4日以上設定する。残業時間軽減のため意識向上の取り組みや、保護者への周知など、教職員や保護者の意識改革を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ノー残業デー行事予定に明示し、それに基づいて計画的に業務を遂行できるようにする。 学校だよりやPTA実行委員会、地域の会議などを活用して保護者・地域に本校の働き方改革の取り組みを周知し、理解と協力を求める。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は、毎日「心の天気」を入れるようにし、使用率が80%を超える日もあった。また、使用回数だけでなく、どの学年も学習者用端末を活用した授業に積極的に取り組むことができた。 2回目の児童アンケートの「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の肯定的回答率は94.1%と学校園の年度目標を大幅に上回ることができた。 担任だけでなく、専科によるタブレットを活用した授業も行ってきた。そのため指標である週3回以上は学習端末を活用した学習に取り組めた学級が多くあったと考えられる。
取組内容②	<ul style="list-style-type: none"> 学校閉校日は4日以上設定することができた。 ノー残業デーであるゆとりの日を設定し、行事予定や職員室に明示することで、少しずつ意識は高まってきた。しかしながら、会議を入れる日がほかになく、ノー残業デーであっても、会議が入ってしまっていたことがあった。また、業務自体まだまだ減っているとはいがたい状態であった。そのため、ノー残業デーであっても、残業を余儀なくされてしまうことがあった。 学校だよりを毎月発行したりPTA実行委員会、地域の会議などを活用したりして保護者・地域に本校の取り組みを周知し、理解と協力を求めた。
	改善点
取組内容①	<ul style="list-style-type: none"> 効果的に活用する方法を研修し、低学年のうちから慣れさせていきたい。 発達段階に応じて、低・中・高学年で達成目標を変えることで、発達段階に応じた目標設定していく。
取組内容②	<ul style="list-style-type: none"> これからもノー残業デーを明示して、意識的に動いていく。 ノー残業デーの日に会議が入ることのないように努めていく。